

曾於市誕生までの変遷

曾於市は平成 17 年 7 月 1 日、曾於郡末吉町・大隅町・財部町の 3 町が合併して誕生しました。私たちの住む曾於市は、いわゆる平成の大合併の中で誕生しましたが、その道のりは決して平坦ではありませんでした。誕生までの経緯を少し紹介します。

まず初めに、平成 13 年 9 月に曾於郡 8 町が集まり、市町村合併問題交換会が開催されました。その後、平成 14 年 5 月に曾於地域市町村合併調査研究会が設立、協議を重ね、同年 11 月に研究報告書を作成し、住民説明会を開催しましたが、同年 12 月に開催された同研究会では、8 町の枠にこだわらないことが確認され、翌年 2 月末で解散となり、曾於 8 町はそれぞれ独自の道を探ることになりました。

この間、各町は新たな枠組みを模索し始め、平成 14 年 12 月に曾於北部（財部町・末吉町・大隅町・松山町）で協議、更に末吉町と大隅町の 2 町でも協議を始めるなど、様々な動きが見られるようになります。



新市名は「曾於市」に！(H16.5.27)

そして、平成 15 年 1 月に末吉町と大隅町による曾於北部地区任意合併協議会が設立され、財部町・松山町・輝北町にも参加を呼びかけました。

その後、同年 4 月 11 日に財部町が加わり、曾於北部合併協議会が設置されました。同年 5 月 8 日の第 1 回目となる合併協議会から平成 17 年 6 月 16 日までの約 2 年間（全 27 回協議会開催）、途中、様々な出来事もありましたが、平成 16 年 10 月 28 日の合併協定調印式を経て、翌年 7 月 1 日、曾於市として新たな一歩を踏み出しました。



合併協定調印式 (H16.10.28)

さて、以上が曾於市誕生への大まかな流れですが、それ以前はどうだったのか、少したどってみましょう。

江戸時代末期、現在の曾於市に該当する地域には、財部郷・末吉郷・恒吉郷の 3 つの郷がありました。なおこの頃、月野は志布志郷、荒谷は大崎郷の一部に含まれています。

次ページの図表をご覧ください。各郷は、複数の村から構成され、これらは現在の大字になっていることが分かります。また、カッコ内に半角で記した村名（例：鶴木村や梶ヶ野村）は、現在まで集落（自治会）名として残っているものや、小字として残っているものなどが確認でき、その地域の変遷の様子がうかがえます。

明治時代に入ると、まず末吉郷から岩川が独立し、岩川郷が創設されます。鹿児島県下では最後に設置された郷となりました。その後、明治 22 年 4 月には町村制が実施され、従来の郷は村（例：財部郷は財部村）に、村は大字（例：下財部村は下財部）となります。その後、県下では分村運動

が広がり、明治 22 年に月野村・野方村（当時、荒谷はこの中に含まれる）が誕生します。

大正時代になると町制施行により、大正 11 年に末吉町、同 13 年に岩川町、同 15 年に財部町となります。

戦後の復興を経て、昭和 30 年 1 月 20 日、岩川町・恒吉村・月野村が合併し、大隅町が誕生。これは政府主導のいわゆる昭和の大合併に伴う動きで、町村制施行後の曾於市域では、初めての合併を経験しました。同年 4 月には荒谷地区が野方から大隅町に編入され、これで現在の曾於市域の基礎が固まることとなります。

そして、平成の大合併で曾於市が誕生し、令和の現在まで、新たな歴史を刻み続けています。



行政区の変遷（江戸時代から曾於市誕生まで）

江戸時代		明治		大正		昭和		平成	
財部郷 （下財部村は初め日向国諸県郡、 M5 大隅国嚙喰郡に編入） 下財部村 （溝之口村・下財部村） 南俣村 （柿木村・集村・須加村・図師村・上之村） 北俣村 （桜木村・日光神村・浦興禅寺村・大峯村 ・古井村・坂元村・西之村）				財部村 [M22. 4. 1]		財部町 [T15. 4. 1]			
末吉郷 （大隅国嚙喰郡） 二之方村 （稲井原村・宮路村） 深川村 （村山村・柳井田（谷）村・鶴木村） 諏訪方村 （西之村・蔵町村） 南之郷村 （大裏（浦）村・中裏（浦）村・小裏（浦）村） 岩崎村 （有持村・中島村・蓑村） 五拾町村 （馬場村・菅牟田村・飯田村） 中之内村 （梶ヶ野村・土成村・田尻村）				末吉村 [M22. 4. 1]		末吉町 [T11. 10. 1]			
岩川郷 五拾町村 中之内村 [M2. 9. 25]		岩川村 [M22. 4. 1]		岩川町 [T13. 4. 1]		大隅町 [S30. 1. 20]		大隅町 [S30. 4. 1 荒谷地区編入]	
恒吉郷 （大隅国嚙喰郡） 長江村 須田木村 坂元村 大谷村				恒吉村 [M22. 4. 1]					
月野（梶野）村 （志布志郷の一部）				月野 （志布志村大字月野） [M22. 4. 1]					
荒谷 （大崎郷野方村の一部）				荒谷 （大崎村大字野方の一部） [M22. 4. 1]		荒谷 （野方村の一部） [M24. 8]			

曾於市
[H17. 7. 1]

明治 20 年 5 月、嚙喰郡が東嚙喰郡と西嚙喰郡に分割される
明治 30 年 4 月、南諸県郡と統合され、嚙喰郡となる。
昭和 47 年 4 月 1 日、嚙喰郡を曾於郡に変更。
平成 19 年 3 月 26 日、都城市簗原町の一部を編入し、財部町下財部田平下の一部を都城市へ編入。

曾於市史編纂事業関連イベントのお知らせ

曾於市史編纂パネル巡回展

これまで収集した古写真や資料をパネル化して紹介いたします。

令和8年11月中旬～令和9年2月（予定）の期間に旧3町を巡回する予定です。

市史編纂歴史講演会：令和8年11月21日（土）午後開催（予定）

市史編纂事業に携わっている先生方が、市内の史跡や資料を用いて、郷土の歴史を深掘りしていきます。

※いずれも詳細は、近日中にお知らせいたします。

新たに加わった執筆者の紹介（順不同・敬称略）

近代・現代編

佐藤宏之 鹿児島大学教授 【明治・大正・昭和初期】

栗林文夫 黎明館調査史料室長 【寺社・宗教関連】（中世・近世編と兼務）

今後も執筆者が追加されたらお知らせいたします。

資料紹介

市民の方々から情報提供のあった資料を随時、紹介いたします。

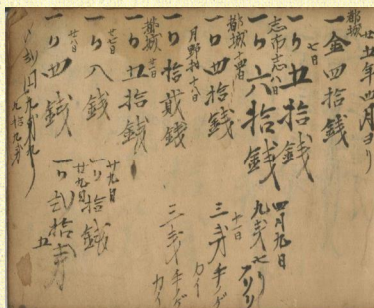
じんりきしやおぼえちよう 人力車覚帳

岩川で車夫（人力車をひく仕事）をしていた藤崎氏が、明治25年（1889）4月から同28年10月までの間の行き先や車賃を記録した帳簿です。

この記録によると、同じ行き先でも到着地により車賃は異なりますが、都城 35～60 銭、月野 10～12 銭、末吉 20～29 銭、松山 12～33 銭、福山 22～55 銭、志布志 25～60 銭、財部 40～80 銭、笠木 10～15 銭、二重堀 20 銭、恒吉 40 銭、市柴 15～20 銭などと記されています。他にも宮崎県（場所は未記載）へ2円50銭、加治木へ1円30銭、小林へ90銭とあり、遠方にも行っていたようです。また、岡留利助（豪商）等の有力者の名前も確認できます。

人力車は明治時代初期に日本で考案され、文明開化の象徴として全国に普及しました。当時は、現在のようなアスファルト道路ではありませんので、非常に重労働だったのではないかと思います。

なお、この覚帳は、旧暦で記されています。明治政府は、明治6年（1873）から太陽暦を採用し、それまで使用していた天保暦は旧暦となりましたが、人々は長年慣れ親しんできた旧暦に基づく生活習慣を簡単に替えられるものではなかったことを、この資料からも感じ取ることが出来ます。



専門部会の様子

中世・近世編の専門部会を、令和8年3月8日に、オンラインも交えて開催しました。執筆分担における懸案事項の確認や、章立ての構成について意見が出されました



現地調査の様子

民俗・文化財編の牧島知子氏による個人宅で手揉み茶についての現地調査の風景です。



曾於市に
ゆかりのある

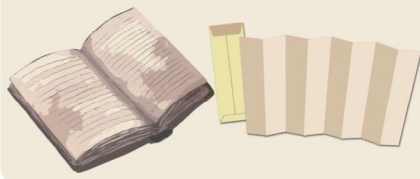
資料・写真・情報を探しています

あなたの家や、公民館の倉庫などに、こんなものはありませんか？

古文書・古記録



日記（日誌）や手紙



地域や学校などで 刊行された記念誌



古写真・アルバム



カセットテープ・ビデオテープ などの音声・映像記録



実物資料



何でも情報を求めています

- 古くから言い伝えられている話
- 人々にあまり知られていない史跡や伝承地
- 今も残る、あるいは途絶えた年中行事・風習・集まり
- 昔の暮らし（生活様式・生活文化・郷土食）
- 郷土の発展に貢献した人物
- 昔の街並みのこと
- なりわい（農林業など）のこと
- 珍しい動植物や地形
- 昔の交通（古道・鉄道）のこと
- 戦争のこと

心当たりのある方や、情報等をお持ちの方は、下記までお気軽にご連絡ください！

《※ 提供頂いた写真等の資料は返却いたします》

市史編纂に参加してみませんか？

市史編纂に興味・関心のある方、資料収集・資料整理など市史づくりのサポートに関わってみたいという方がいらっしゃいましたら、下記までお気軽にご相談ください。



←昭和33～34年頃の桐原集落。現在のきいわらん丘から撮ったもので、当時は高千穂が見えていました。

→国原の馬踊り（昭和30年代）公民館前で撮影。毎年4月4日、高之峯の山頂で奉納していました。



お知らせ

令和8年4月1日より生涯学習課内に、文化財・市史編纂室 市史編纂係が新設されました。今後、市史編纂事業をますます推進して参りますので、市民の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

そ かわ し し へん さん
曾於市史編纂だより

第 3 号

発行日：令和8年7月31日

連絡先（曾於市史編纂事務局）

〒899-8692 鹿児島県曾於市末吉町二之方1980番地（曾於市役所 本庁舎本館3階）

曾於市教育委員会 生涯学習課 文化財・市史編纂室 市史編纂係

電話 0986-76-8873 / FAX 0986-36-7500

メールアドレス o-syakyou@city.soo.lg.jp